

## 2023年度外部研究評価委員会における主要意見及び国環研の考え方

### 気候危機対応研究イニシアティブ

	委員会の主要意見	主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	気候変動に関わる研究プログラム、さまざまなステークホルダーなどを相互に連携し、一体的に推進するための役割を果たして、社会への情報発信も含め、大きな成果を挙げている。ますます重要性が高まる取組である。	ありがとうございます。これからもご期待に添えるよう取り組んでまいります。
	IPCC シナリオは、多くの研究者、国民が関心を持っていると考えられるため、できるだけ広い年齢層を対象にした情報発信があると良い。	コメントありがとうございます。シナリオの情報発信は、今後はより広い層に向けて行っていくのが検討課題だと認識しています。
	つくば市の気候市民会議は結構な労力が必要であり、同じような取組について積極的ではない自治体も多いと思う。あるいは脱炭素には積極的であっても市民の意見を吸い上げる事に関心がない市もあると思う。そうした市に、どのようなインプリケーションがあるのか知りたい。	つくば市の気候市民会議での経験を広く伝えることで、市民の意見の把握に前向きな自治体が増えることが第一の目的です。もちろん、困難な自治体もありますので、市民会議の簡易版や解決策の普及促進などは有力な支援策になると考えます。
今後への期待など	関係者による研究に関する情報共有を引き続き行いつつ、大型の予算の獲得や包括的な提言など、アクティブな活動を期待する。	大型予算獲得や包括的な提言については、次期中長期計画をデザインするときに、イニシアティブでの議論の成果が活かされるとよいと考えています。
	民間での気候変動とモデルへの関心が高まる中、ぜひ企業等との対話、協働を AIM モデルチームと一体となって進めていただきたいと思う。	コメントありがとうございます。企業等との連携については、4プログラムが既に行っている連携について共有を行い、戦略を議論する予定です。金融との対話も次のステップを検討中です。
	IPCC の組織再編や影響力の向上に本イニシアティブ、および国環研が積極的なリーダーシップを発揮されることを期待する。	ありがとうございます。これからも積極的に取り組んでまいります。差し当たっては IPCC 第7次評価報告書（AR7）への貢献を目指していきたいと考えます。